

I 平成30年度の運営総括及び来期の課題

1. 乳幼児事業

(1) 総括

①ちびっこ広場

毎週水曜日の午前中に『ちびっこ広場』を行っています。内容は絵本読み聞かせ、手遊び、親子体操、工作、誕生会等です。『ちびっこ広場』に参加することを楽しみに来館する親子が多く、みんなで歌ったり体操したりする楽しさを共有しています。毎月季節に合わせた「月の歌」を参加者皆で歌ったり広場の最後におなじみの体操をしたり、音楽を豊富に取り入れたリトミックを中心とした広場を展開してきました。その結果、幼児が、音楽が聴こえるとリズムに合わせて踊ったり、日頃遊びに来る際に「月の歌」を親子で歌ったりする様子が度々見られるようになりました。

昨年まで頻繁に遊びに来ていた幼児の半数が保育園や幼稚園に入園し、今年度も新しい顔ぶれでイベントを行ってきました。味方地域の方だけでなく月潟地域・根岸地域・白根地域、区外・市外・県外からの来館も増え、利用者からの紹介や検診、育児相談、また最近ではHPや母親同士のSNSなどから児童館を知り来館される方が多く、味方児童館が周知されてきていると感じました。

今年度も味方地区の親子サークル『りとるくらぶ』と共催で『ちびっこ運動会』、『ちびっこひなまつり会』などの季節行事を行うことができました。『ちびっこ運動会』、『ちびっこひなまつり会』は昼食が食べられるということもあり、とても人気のあるイベントです。食事の提供は、地域の食生活改善推進委員の方がボランティアで参加してくださっています。食物アレルギーのお子さんの除去食や、月齢の低いお子さんの離乳食など細やかな配慮をして下さり安心してみなさんで楽しく食事をすることができています。祖父母が孫を連れて来館することも多く、祖母同士、祖母と母親などの異世代の交流も見られるようになりました。こうして地域で子育てするという環境ができ上がってきています。今後も利用者のニーズをしっかりと捉え、より楽しい、居心地の良い児童館を目指して管理運営を行っていききたいと思います。

②つくって遊ぼう

毎月第2週水曜日、木曜日、金曜日に親子と一緒に工作を楽しむ行事として『つくって遊ぼう』を行いました。子どもの月齢に合わせた季節の工作や、手作りおもちゃなど親子で楽しんで工作できるように工夫をしてきました。この行事をきっかけに、工作が好きになっていく子どももいるようで、『ちびっこ広場』に参加していた幼児が成長し、児童館の工作コーナーで廃材を使い楽しそうに工作をしている姿もよく見られます。

③ほっとティータイム

毎月第4週水曜日の午前中、『ちびっこ広場』の後に保護者向け、乳幼児向けの飲み物を提供する『ほっとティータイム』を行っています。飲み物があることで保護者同士が

交流しやすく、保護者の友だち作りの場になっています。日頃育児に追われている保護者の方が「ほっ」と、ひと息ついて、育児ストレスを発散できる場所になればと企画して始めた効果が表れてきているように感じます。

④移動児童館

昨年度に引き続き、味方地域の2つの保育園『あじほ保育園』、『にししろね保育園』での移動児童館を実施しました。今年度は保育園側から要望のあったカプラをメインに、園児でもできるような簡単な動物や、塔などを作った後、大人数で協力して『マウント富士』、『ナイアガラ』を作り上げました。子ども達はとても集中して取り組み、先生方からは「私達のカプラの遊び方の勉強にもなった」、「子ども達がその後カプラを丁寧に片づけるようになった」と非常に喜ばれました。次年度は内容をリトミックに変えて訪問する予定です。

⑤ママのためのリフレッシュタイム

平成24年度から、子育てを頑張っている母親（祖母）にリフレッシュしてほしいと思い始めた事業です。年に4回、保護者の方が楽しめてリフレッシュできるものを企画しました。4月、10月には『ママのためのリフレッシュタイム』スタート時から継続して行っている『足つぼマッサージ』を開催しました。アンケートなどでは「マッサージをしてもらいたい」という要望がとても多いため、このイベントは毎回すぐに予約が埋まってしまうくらい非常に大人気となっています。その他には、30年度は職員の特技を活かした内容のイベントを行いました。6月にはハーブを勉強している職員が講師となり、『ハーブ石鹸作り』を開催しました。「ハーブの香りで、作りながら癒されました」との意見も頂きました。また、子どもにもお肌に優しい石鹸ということも嬉しかったようで非常に好評でした。8月にも職員が講師となり、『アイロンビーズ☆コースター作り』を行いました。見た目にも可愛く、作り終わったらコースターとして使えるということで、母親たちは童心に帰りに楽しんでいました。今後も保護者のニーズを汲み取りながら、心と体をリフレッシュし毎日の子育てを楽しめるような企画していきたいと考えています。来年度も年に4回開催する予定です。

⑥しゃべろっと

南区健康福祉課主催の子育て支援研修会に参加し、子育て支援リーダーとなった『子育てオーエンジャー☆みなみ』が中心となり、0. 1. 2歳の子どもの母親対象に支援を行っています。味方児童館を活動場所とし、育児中のちょっとしたストレスや愚痴を気軽に話したり育児の悩みを相談し合うのが目的です。話しやすい環境づくりをするためにハンドトリートメントやお茶、お菓子も用意し、予約なしで気軽に遊びに来られるようにしています。

1月の『しゃべろっと』では『プチヨガ』を行いました。子育てをしているとなかなか体を伸ばしたりする機会もないようで、参加者からは「とても気持ち良かった」、「子育てでこり固まっていた体が伸びました」と喜びの感想を頂きました。3月の『子守歌

を体感しましょう♪』では、児童館職員による子守歌とピアノ伴奏、絵本の読み聞かせを行いました。会の途中では、部屋を暗くしてお子さんと一緒に母親に少し寝転んでもらい、リラックスできる時間を設けました。絵本の読み聞かせでは赤ちゃんがお腹の中にいる時のことを思い出した方もいられたようで、涙を流す母親もいました。

『子育てオーエンジャー☆みなみ』のメンバーは、地域の主任児童員の方が担っています。味方地区には、味方児童館の存在を知らない方や、知っていてもなかなか児童館へ一歩踏み出すことが出来ない方がいらっしゃるようです。そこで、地域の方と協力し、保護者が孤立しない、孤立させないためのケアを今後も続けていきたいと思ひます。来年度も年に6回行う予定です。

⑦父子親子の利用数の増加

近年では、母親だけではなく、父親が乳幼児を連れて来館することが増えてきています。特に土日の利用が多く、家族で来館することもあれば、父親だけで子どもを連れてくることもあります。いわゆる“イクメン”と言われる子煩悩な父親が増えてきたことでもあります。アットホームで親しみやすい児童館の雰囲気、父親一人でも来館しやすい要因となっていると感じています。また、家庭の中で、父親一人でも安心して行ける遊ば場としての認識が広がってきているのだと思ひます。今後も、どなたでも入りやすい温かな雰囲気を維持していけるよう努めていきます。

(2) 来期の課題

①新たな行事への取り組み

開館から丸10年ということで、最初の頃に比べだいたい児童館も地域から周知されてきたように感じます。現状で乳幼児親子から人気の高いイベントはそのままに、さらに新しく乳幼児親子のニーズに沿ったイベントへの取り組みを考えていきます。『温故知新』の精神を忘れず、現状に満足せず常にアンテナを張り、いつ来ても新鮮で楽しい児童館であるよう、努めていきます。

②相談業務の充実

これは今年度も掲げてきた課題ですが、次年度も継続して課題にしていきたいテーマだと思ひています。乳幼児親子と日々関わっていると、様々な場面で育児の不安や悩み、ストレスを抱える母親が多くいることを実感させられます。少しでもそれらの不安や悩みを解消するお手伝いができるよう、職員一人一人がさらなるスキルアップを目指し、傾聴の技術を磨いていきたいです。また、乳幼児親子との信頼関係が築けるよう、日常的な場面での乳幼児親子とのコミュニケーションを特に大切にしていきます。保護者の心に寄り添い、気軽に話ができる居心地の良い児童館を目指していきます。

2. 小学生事業

(1) 総括

今年度も前年に引き続き、小学生の利用が増加した年であったと感じています。今年も、例年では来館が少なくなりがちな新1年生の来館が特に多かった印象でした。幼児期に保護者と児童館に何度か来館したことがある子ども達が多く、既に慣れていたという理由があると思います。また、高学年が低学年を伴い来館する様子も多く見られたのが今年の最たる印象でした。上学年が下学年の面倒を自然にみて、一緒に遊んでくれることで、低学年の児童館に来館する頻度が上がっていったように感じます。

味方児童館に遊びに来る子ども達は、異学年・異学校の子も達同士でも仲良く遊べるという点が非常に素晴らしいと思います。当たり前のように声をかけ合い、一緒にドッジボールやサッカーをして遊ぶ姿が毎日見られます。味方という地域柄と、小さな児童館ならではの長所と、微笑ましく見守っています。

また、近年の傾向として、異学年・異学校の子も達同士だけでなく、乳幼児親子・中高生との交流も盛んになってきていることが挙げられます。小学生達が自ら乳幼児の遊び相手を申し出て、乳幼児の母親達も快くそれを受け入れ、他愛ないおしゃべりしながら楽しそうに交流する様子が見られます。年上である中高生との関わり方としては、甘えて可愛がってもらったり、遊び相手になってもらったりしているようです。自分達が受けた優しさを、自分達よりも下の年齢の子ども達に返しているようで、見ていてとても心が温まるのと同時に、小学生・中高生・乳幼児親子の世代にも確実に良い影響を与えていると感じます。これは0～18歳までの児童とその保護者を対象としている“児童館”ならではの最大の長所だと思うので、今後も、この多世代交流の小さな芽を大切に、トラブルのないよう気をつけながら見守っていきたいと思います。

今年度の小学生向け行事は、毎週火曜日に行っている『なかよし広場』の中に、『つくって遊ぼう』、『おりがみキッズ』といった工作行事、また防災に関する知識と意識を高めるために、『ミニ避難訓練』を定期的に混ぜ込み行ってきました。さらに、月に一回程度ドッジボール大会やオセロ大会、百人一首大会などの大型行事を開催しました。こうした大型行事には、度々地域の方々や中高生のボランティアのお手伝いを頂き、地域との交流の機会としても機能してきました。

地域の方々から要望を受け平成27年度から始まった『移動児童館』では、『味方ひまわりクラブ』に2回訪問し、さらに28年度からは味方小学校文化祭体験教室にて『カプラ』の講師として訪問し、移動児童館を行いました。今年の『カプラ』は、一人一人が「汽車」を作り、そこからレールでつなげ、駅舎やビルを作り、巨大な「街」を作りあげました。来年度の文化祭も小学校に伺う予定になっています。また昨年度からは、かねてから要望のあった、味方地域の各公民館を使った移動児童館も実施しています。児童館から家が遠く、送ってもらわないとなかなか遊びに来られない子のために、今年度は西白根公民館の講堂で移動ドッジボール大会を行いました。西白根地区の多くの子ども達が参加してくれ、移動児童館の必要性を改めて実感しました。

初年度から【子どもたちと一緒に作る児童館】を目標として掲げ、意識的に児童館運営を行ってきましたが、丸10年が経ち、ようやく“これが味方児童館なんだ”とい

った味方児童館の“色”のようなものが見えてきた気がします。【子どもたちと、地域と共につくっている児童館】、それが味方児童館です。

毎年恒例となっている『ハロウィンパーティー』では、「老人デイサービスセンター味方」へ行き、ダンスや歌の披露、昔遊びをして利用者の方と多世代交流をしてきました。出し物を発表するために、自主練習や全体練習を積極的に行いました。また、コミュニティ協議会主催の敬老会に小学生が参加し、地域の方々の前でダンスを披露しました。様々なイベントを通し、子どもたちの中で、“自ら行う”という気持ちが徐々に芽生えてきていると感じます。各行事前の準備や企画、手伝いを積極的に行い、“自分達の児童館”として大切に考え行動してくれている姿が目立ちます。今後も子ども達の気持ちに添いながら、一緒に楽しい児童館を作りあげていきたいと思えます。

(2) 来期の課題

①子どもたちの自主性を高め、育てていく

最近では小学生が自主的に行事準備を手伝ってくれたり、『おまつり』や各行事のボランティアを引き受けてくれたりすることが多く見られるようになってきました。職員がやっている仕事に興味津々で、「何かお仕事ない？」と積極的に声を掛けてくる子ども達がたくさんいます。ただイベントに参加するだけでなく、運営側にも回ってみたいという気持ちが芽生え始めてきているようです。また、2012年度よりスタートした事業『小学生クラブ』も盛り上がりを見せており、子ども達が自らやろうとする自主性がぐんぐん育ってきているように感じます。大人が先導するのではなく、子ども達自身が子ども達を引っ張って周りを巻き込み、どんどん自主性の輪が広がっていく、そんな子どもの力溢れる児童館を目指していきます。

②イベントにバリエーションを

乳幼児向けイベント同様、開館10年を迎え小学生事業も少しマンネリ気味になってきているように感じます。小学生の声や要望に耳を傾け、10年の節目だからこそ、守りに入るのではなくどんどんと新たな行事の実施に挑戦していきたいと思っています。

3. 中・高生事業

(1) 総括

近年ますます中学・高校との連携のパイプが強まってきていると感じています。特に味方中学校とは、児童館各行事のボランティアの募集を積極的に協力して頂いたり、中学生の情報交換のための会議の場に招いて頂いたり、密な連携をとっています。そのおかげか、「児童館は小学生がいくもの」というイメージが最近はずいぶん払拭されてきているように感じます。開館以来、徐々に中高生の来館数が伸びてきており、今年はイベント時のみならず、日常的に中高生が遊びに来てくれる姿も度々見られました。

『クリスマス会』の吹奏楽部演奏会だけでなく、中学生の職場体験や、『なつ・ふゆま

つり』のボランティアなど、中学生の児童館での活躍の場も、近年ではどんどん増えてきています。

『中高生夕涼み会』では、今年も味方中学校にご協力を頂き、生徒のランチの時間に夕涼み会の告知と実行委員を募る時間を設けさせてもらいました。ポスターでの告知だけでなく、直接呼び掛けができたことでより多くの生徒達がイベントを知ることができたと感じています。また今年はいままでとは少し趣向を変え、オリンピックで流行したカーリングにちなみ、中高生 VS 職員での「フロアカーリング大会」の内容で実施してみました。初めてチームに分かれ勝負事の内容にしたのが新鮮だったのか、子どもたちもいつの間にか真剣になり、子どもたち同士でストーンの位置などを相談したり本気で楽しんでいたのが印象的でした。

『おまつり』では、中高生がボランティアスタッフとして協力してくれ、大活躍してくれました。募った時に引き受けてくれるだけではなく、日常的に運営側のお手伝いをしてもらえることが自然になってきています。この形が、中高生の居場所をつくることにも繋がっていると感じています。行事としても、今後もっと中高生が児童館に関われるような企画を考えていきたいです。

日々小学生達の遊び相手をしてくれる中学生の姿を見て、これが児童館の在るべき理想の姿だなあと感じます。児童館を利用した子ども達が成長し、自分達がしてもらったように今度は大人として下の世代の子ども達を楽しませてあげようとする、こうした循環が双方に良い刺激と成長を与えたいと思います。この流れを大切に、今後も中学・高校と連携しながら運営を続けていきたいです。

(2) 来期の課題

① 中高生イベントの充実

開館当初、中学生に向けてやってみたいことを募り、中高生イベントを行いました。しかしその頃はまだ児童館の認知度も低かったことや、中学生も勉強に部活にと忙しく、中高生の参加はほぼありませんでした。10年が経ち、児童館が地域の中でも認識されるようになり、中高生の来館も増えてきた今こそ中高生向けイベントを増やしていきたいと考えています。なかなか時間が取れない中高生のことを考え、中学校や高校に向けた『移動児童館』の実施を計画しています。また、一昨年まで行っていた、『味中剣道部と遊ぼう！』のような、部活動を絡めた、小学生や乳幼児親子と中高生と一緒に活動できるようなイベントを考えていきたいです。今後も工夫をし、“高校生になっても楽しい児童館”であるよう努めていきます。

3. 地域との連携事業

① 味方地区公民館との連携事業

- ・ 育児講座ベビーマッサージ（6月）
- ・ 人形劇（7月）

- ・食育講座おはよう朝ごはん（7月）
- ・陶芸教室（7、8月）
- ・科学にふれよう（11月）

②味方小学校、おむすびクラブとの連携事業

- ・校外学習（弥彦山登山）
- ・いきいき子ども塾「お寺に泊まろう」
- ・「自学おうえん隊」
- ・文化祭体験教室「カプラ」

③味方中学校との連携事業

- ・職場体験（7月）
- ・クリスマス会吹奏楽部演奏会（12月）
- ・おまつり生徒ボランティア（9、2月）

④ボランティアとの連携事業

- ・なつまつり
- ・夏休み工作
- ・将棋で遊ぼう
- ・新年お楽しみ会（百人一首大会）
- ・ちびっこクリスマス会
- ・ふゆまつり
- ・乳幼児行事・小学生クラブ（食生活改善推進委員など）
- ・ちびっこ広場での絵本の読み聞かせ
- ・工作材料・手作りおもちゃの提供、花植え、瓢箪栽培、館内の風の展示ボランティアなど 多数